

実践報告 生活科「自分の成長」

～自分自身の成長を実感し、自立への基礎を養うために～

The Practice Report on Life Environment Studies "One's Growth"

—To realize own growth, and to develop the basics to independence—

栗原 清*

KURIHARA Kiyoshi

1. はじめに

子どもたちが生き生きと意欲的に生活・行動するためには、自分に対して自信をもつことが肝要である。その自信は、子ども自身が成長したり何かをできるようになったりしたことを自覚し、周りの人々が自分の成長に期待し愛情を寄せていることを実感することで養われる。小学校2年生の子どもは、日々成長しつつあるものの、それらのことには気付かずに過ごしている場合がほとんどである。生活科の単元である「自分の成長」の学習で、これまでの自分自身の成長を振り返る活動を行うことで、過去の自分と現在の自分を比較し、成長を実感させたい。そして、自分の周りには成長を支えている多くの人々がいたこと、これからも成長を応援するだろうと気付かせ、自立への基礎を養わせたい。

本報告では、小学校2年生の子どもが小さいころに使っていた物やエピソードを手掛かりに自分の成長に気づき、自分を支えていた人の存在に気付く過程を具体的に記述していく。そして、自分や友だちのよさを知り、今後お互いに成長し合っていこうとする様態について述べていくものである。

2. 次期学習指導要領との関連

2016年8月に「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」が文部科学省から示された。生活科も他の教科と同様に「生活科において育成を目指す資質・能力の整理」がなされた。その内容を大きな3つの柱に沿って示すと以下のようになる。

・知識や技能の基礎（生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか）としては、具体的な活動や体験を通して獲得する自分自身、社会事象、自然事象に関する個別的な気づきや関係的な気づき、具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能などが考えられる。

・思考力・判断力・表現力等の基礎（生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）として、身体を通して関わり、対象に直接働きかける力や、比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力などが考えられる。

・学びに向かう力・人間性等（どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか）としては、身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度、身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度、自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信を持って学んだり生活しよ

* 学習院大学文学部教育学科兼任講師、学習院初等科

うとする態度などが考えられる。

このなかに、「自分の成長」単元にかかわるキーワードが並べられている。すなわち、知識としては、「自分自身に関する個別的な気付きや関係的な気付き」であり、思考力・判断力・表現力としては、「比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力」であり、学びに向かう力・人間性等としては、「自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信を持って学んだり生活しようとする態度」である。

したがって、本実践の中でもこれらのキーワードに留意して自立への基礎を養う方向性を模索することにした。

3. この単元の配慮事項

自分の成長を振り返るということが必須な本単元は、過去の自分自身や出来事を思い浮かべ、過去の自分と現在の自分とを比較することが学習内容に含まれる。『小学校学習指導要領解説生活編』（2008）には、どの時点から自分の成長を振り返るかということは決められていない。また、成長を振り返る手掛かりとして、親族（父母や祖父母）、親戚の人々、幼稚園や保育所の先生の話、幼い頃に使ったもの、入学当初にかいた自分の名前や絵、行事の写真、生活の中でのエピソードなどが考えられる、と記されている。（次期学習指導要領解説編でもおそらく同様の内容が示されるであろう。）

このように自分の成長を支援した対象には各種あるものの、自分の「父母」が大きな存在を占めることは言うまでもない。「父母」を除いた学習指導も可能ではある。しかし、学級の状況が許されるならば、「父母」を堂々と学習活動内に登場させ、一番身近な対象から自分にまつわる情報を得て成長を実感させたいと考える。その場合でも、プライバシーの保護には留意し、それぞれの家庭の事情や生育歴、家族構成などに十分配慮することが必要である。

本単元では、以上の配慮事項の上に立って、自分の成長を振り返る時点を誕生時点とし、振り返る手掛かりの一つとして母親からの情報を得ることを基本として学習指導を進めた次第である。

4. 実際の学習指導

（1）単元名

これまでの自分を知ろう—大きくなったね—

（2）単元の目標

成長を振り返り、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことなどがわかり、これまでの自分の生活や成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちをもつことができるようにするとともに、自分や友達のよさに気づいて、それをこれからの成長への糧にして、意欲的に生活することができるようにする。

（3）事前準備

学年通信を利用して、以下のように保護者の方へ協力を要請した。以下にその文面を記す。（一部改変）

◎生活科の学習「大きくなったね」のご協力をお願い

○月○日から○月中旬まで、生活科で「大きくなったね」の学習を行います。この

学習は、子どもたちの誕生からこれまでの成長を振り返ることで、家族の願いや支えに気付くとともに、自分自身の成長を実感し、次なる成長へとつなげることを目標にしています。

そこで、“家の人からの贈り物”ということで、お子様の幼かったころ（誕生から3歳ごろまで）の思い出の一品をお子様を持たせていただきたいと思います。具体物をもとに自分の成長やそれを支える家族の願いや思いを感じとらせ、学習の出発点にしたいと考えております。

例として、次のようなものを想定しています。

- ・赤ちゃんの産着、帽子、涎かけ、手袋、靴など
- ・幼いころに遊んだおもちゃ類
- ・愛用していた哺乳瓶、食器などの道具類
- ・お気に入りだったタオル、ぬいぐるみなど
- ・初めて〇〇した思い出の品
- ・幼いころの写真 など

※ お品を写真に撮ってお持ちいただいても構いません。

選んでいただいたものは、袋に入れて封をしたり紙などで包んだりして、授業で開封するまでお子様の目に触れないようにしてください。○月○日（○）までにお子様を持たせてください。あわせて、簡単で結構ですので、思い出の一品に関するコメントやお子様へのメッセージを同封していただければと思います。この授業が終わりましたら、お品はお返しいたします。

また、学習のまとめとして、自分の成長を振り返るアルバムを作る活動を行います。お子様の生まれた直後、1歳のころ、2・3歳のころ、幼稚園生のころの写真のコピーを使います。主管からの指示がありましたら、お子様を持たせてください。ご協力をよろしくお願いいたします。

(4) 単元の学習指導記録（全10時間）

時・ねらい	○活動 T 教師の主な発問 C 児童の主な反応	・資料 ※留意点
【1時】 赤ちゃんのころに使っていたものをもとにして、赤ちゃんの頃の自分に関心を持つとともに、赤ちゃんのころの自分と今の自分との違いについて気付くようにする。	○家の人からの贈り物を開けて、品物を観察する。家の人からの手紙を読む。 ○グループで、赤ちゃんの頃に使っていたものやエピソードを交えながら紹介し合う。 ○赤ちゃんの頃に使っていたものについてエピソードも交え全体に発表する。 ○みんなの赤ちゃんの頃に使っていたものについて、その特徴や共通点、家の人について話し合う。 T：どんなものが多いかな。 C：今は小さすぎて使えない。 C：かわいいものが多い。 C：今は使わないものが多い。	・家の人からの贈り物（赤ちゃんの頃に使っていたもの） ※グループになって、家の人の手紙や自分の記憶を手掛かりに赤ちゃんの頃のことを伝え合う。 ※板書して、どんなものがあるのか一覧できるようにする。 ※エピソード発表は数人行う。 ※ものによっては、今も大切に使い続けているものもあることに留意する。

	<p>C：今も大事に使っているものもある。 T：家の方はなぜこれを選んでくれたのかな。 C：家の方はこんなことを思っていたのだ。 C：それぞれに思い出がつまっているよ。</p> <p>○学習感想を書く。</p>	<p>・学習感想プリント</p>
<p>【2時】 今までの成長についてふりかえり、自分自身の成長過程について調べようとする意欲を持たせる。</p>	<p>○赤ちゃんの頃に使っていたものと前時に書いた学習感想を見て、前時の活動を振り返る。</p> <p>○赤ちゃんの頃の自分と今とを比べて、できるようになったこと、それがいつできるようになったのかを話し合う。</p> <p>C：一人で歩けるようになった。 C：自分でご飯を食べられるようになった。 C：話せるようになった。 C：算数ができるようになった。 C：赤ちゃんのころからできたのかな。 C：いつからできるようになったのだろう。 T：実際はどうだったのか、調べたいね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>生まれてから今までのことをよく知るために、「じぶんたんけん」をしよう</p> </div> <p>○「じぶんたんけん」をするために、何をどのように調べればよいか話し合う。</p> <p>○家の人へのインタビューの仕方について、教科書で調べたり先生の話の聞いたりする。</p>	<p>・赤ちゃんの頃に使っていたもの ・学習感想プリント ※具体物をもとに考えさせる。 ※今、当たり前にもできることでも、赤ちゃんの頃はどうかだったか問いかける。</p> <p>・ワークシート ※週末の課題…家の人にインタビューし、ワークシートにメモする。幼かったころの写真を用意する。</p>
<p>【3時～5時】 自分の成長の様子の適切な場面を選び、自分なりに表現できるようにする。</p>	<p>○「じぶんたんけん」をして、わかったこと、感じたことを発表する。 C：小さいころ、こんな子でした。 C：お気に入りの○○がないと、すぐ泣いていたそうです。 T：生まれてから今までの自分の様子を描いた紙芝居を作りましょう。</p> <p>○「じぶんたんけん」の成果として、ワークシートと写真のコピーをもとに、紙芝居（自分の成長の記録）を作る。</p>	<p>・宿題で出されたワークシート</p> <p>※ここでは、何人かのエピソードの紹介に留める。 ※画用紙で紙芝居風にまとめる。表はイラスト中心、裏は説明文。 ※それぞれの時期で印象的な場面を選ぶようにする。</p> <p>・画用紙 ・クーパー</p>
<p>【6時～8時】 成長の記録をもとにして、自分も友達も、生まれてから今までに大きく成長し</p>	<p>○グループ内で紙芝居（自分の成長の記録）を発表する。</p> <p>○友達の発表を聞いて、思ったこと、感じたことを発表する。</p> <p>○生まれてから今までに、できるようになったこと、成長したこと、自分の成長を見守り支えてくれた人について発表する。</p>	<p>・紙芝居</p> <p>※成長過程での共通点やその子なりの良さ、がんばりなどに注目するようにさせる。</p>

<p>たこと、これまでの成長を支えてくれた人々がいることに気付くようにする。</p>	<p>○自分のこれまでの成長についての感想と自分の成長を支えてくれた人へのメッセージを書く。</p> <p>○自宅などで、お世話になった方の前で発表する。</p>	<p>・感想及びメッセージカード</p> <p>※紙芝居の最後に付け足せるようにする。</p>
<p>【9時・10時】 これまでの学習をもとに、自分や友達のよさに気づき、仲良く、安心して生活していこうとする態度を養う。</p>	<p>○大きくなった自分の、現時点でのよさを考える。</p> <p>○グループ内で、お互いのよさを付箋に書き合う。</p> <p>○一部のメンバーを代えて、お互いのよさを付箋に書き合う。(何回かのローテーションを行う)</p> <p>○台紙に張られた、友達が書いた自分のよさの付箋を読んで感想を書く。</p> <p>○学級全体で、これから先どんな学級にしていきたいかを話し合う。</p>	<p>※この1年間でできるようになったことを指摘させ、自分のよさに気付かせる。</p> <p>※性格面、行動面、役割面などから考えさせる。</p> <p>・付箋(グループごとに多数)</p> <p>※4人グループで行い、2人ずつ交代していく。</p> <p>・台紙</p> <p>※だれでもよさをもっていて、学級はそういう人たちの集まりであることを強調する。</p>

5. 本実践に関する資料や児童の作品等

(1) 第1時

単元の導入は、事前に学年通信で依頼しておいた家の人からの贈り物を開けて、品物を観察し、家の人からの手紙を読むことであった。以下に2名の児童の母親からの手紙を記す。

【A児母】A児へ。この前の九月に八才になったA児。小学校に入学してから心も体もぐうーんと大きくなりましたね。さい近は、自分自しんで考え、行どうすることも多くなりました。

思いかえせば八年前、体もじょうぶでけんこうに生まれてきてくれたA児は女の子みたいにしずかでおだやかでみんなをえがおにしてくれた子でした。ぬいぐるみが大すぎて、とくにお気に入りだったのは、はだざわりのよいカンガルーのぬいぐるみで、いつもいっしょにねていました。そのぬいぐるみは今も大切にA児のおへやにおいてあり、そのカンガルーを見るとA児の赤ちゃんのころを思い出してお母さんもうれしい気持ちになります。これからも、けんこうでよく学び、心ゆたかに大きく成長して行ってほしいとねがっています。A児、生まれてきてくれてありがとう。お母さんより。

【B児母】B児へ。このエプロンをおぼえていますか。二才ぐらいのころ、お母さまと同じかっこうをしてお台どころに立ちたくて、これをかけてお手つだいをしてくれましたね。お母さまも小さいころ、このエプロンをつかっていて、おばあさまが「いつか生まれてくるまごのために」と大切にしまっておいてくれました。ざんねんながらおばあさまはB児が生まれる前に天国へ行ってしまいましたが、きっといつもお空から見まもってくれています。これからも元気で楽しい、そして、おばあさまのようにおりょうりの大ききなB児

でいてください。母より。

図1・図2は第1時の様子である。赤ちゃんの頃に使っていたものについてエピソードも交え全体に発表している。

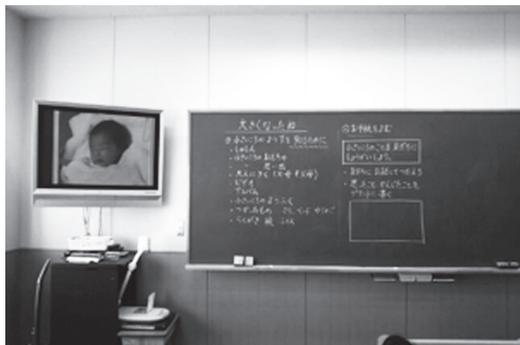


図1 赤ちゃんのころの写真



図2 赤ちゃんの頃に使っていたもの

第1時の最後に書いた学習感想は以下の通りである。(一部改変) この学習プリントは第2時の冒頭にも使用したものである。

【A児】 ぼくの小さいころ、いつもベッドでねていたぼくのカンガルー。そして、8年後も大切にとってあるカンガルーのぬいぐるみをいつまでも大切にしたいです。(友達の発表を聞いて) みんな赤ちゃんのころの大切なものです。今もみんなぼくと同じように大切にしているんだなと思いました。

【B児】 わたしもしょうらいおりのりが大すきな人になりたいです。今もずっとお台どころに立ちたいくらいです。(友達の発表を聞いて) とくにCさんのうさぎの「もふもふタオル」が大すきなんだなと思いました。

(2) 第2時～第3時

第2時の冒頭で前時の学習プリントを見て、学習を振り返った。その様子が図3の板書から読み取れる。主なものとしては、「○○のいいところがわかった」、「○○はお父さんやお母さんに大事にされている」、「小さいころのエプロンを見て○○の将来の夢がわかった」、「○○は小さかった」、「○○の名前の訳がわかった」などである。その後授業者(筆者)が、「自分や友達の小さい頃と比べて大きくなったということはできることが増えたということ」と視点を変え、「できるようになったのは何か」、「それはいつか」と発問をした。そして、それらのことを確かめるのはどうしたらよいかの話し合いをし、「小さいころの自分たんけんをしよう」という学習問題を確かめて、第3時以降の活動に入ったのである。

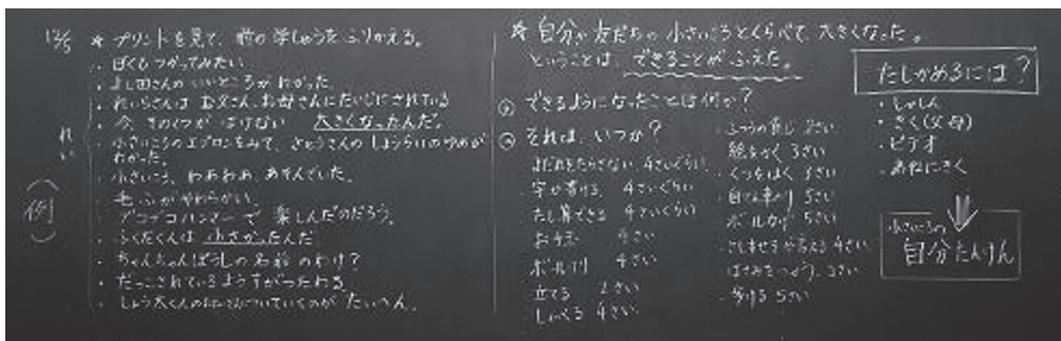


図3 第2時終了時の板書

第3時は「自分たんけん」をする時間をとるために1週間後に実施した。以下のような図4（ワークシート）を配付して宿題とした。

生活 じぶんたんけん

○今までの自分について知るために、お家の方にインタビューをしましょう。

○それぞれのころのしゃしんのコピーを4まいよういしていただきます。

①生まれたころ（0さい） 年月

しん長 cm 体じゅう キログラム

しゃしんのせつめい

どんなおやさんでしたか

②1～2さいのころ（ さい） 年月

しん長 cm 体じゅう キログラム

しゃしんのせつめい

どんなおやさんでしたか

③3～4さい・ようち園のころ（ さい）

しん長 cm 体じゅう キログラム

しゃしんのせつめい

どんなおやさんでしたか

④しょうが入学のころ（ さい）

しん長 cm 体じゅう キログラム

しゃしんのせつめい

どんなおやさんでしたか

図4 じぶんたんけんワークシート

宿題の「自分たんけん」（ワークシート）をもとに、わかったことや感じたことを発表し、次は「紙しばい」を作ろうと子どもたちに投げかけた様子が図5である。

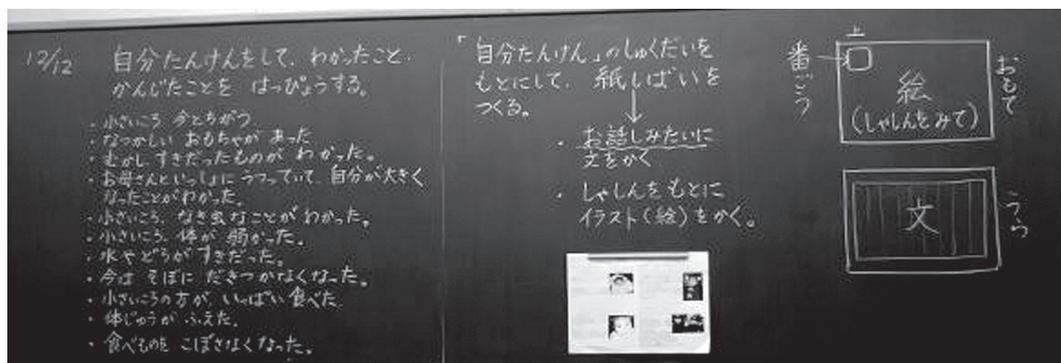


図5 第3時の板書

(3) 第4時～第5時

「自分たんけん」のまとめ方は本来子どもたちに考えさせるのが通常である。取材したことの中から、何をまとめたいのかを考えさせる。まとめたい事柄が決まったら、どうやってまとめるのかを考えさせる。筆者は過去に蛇腹絵本、巻物などで自分の成長をまとめさせてきたが、今回は確保できる時間数が限られていたため、どうやってまとめるかについての話し合いを省略し、紙芝居でまとめる指示を指導者（筆者）の側から与えた。紙芝居は図4のワークシートの4つの時期に対応させることにし、時系列でつくることにした。作成する子どもたちの負担や発表の時間数も考慮に入れて、表紙も含めて一人5枚の枚数とした。紙芝居のよさは、語り手と聞く人がはっきりとしていて、内容を短時間で友達に

伝達でき、電子黒板のようなICT機器にもすぐに応用できる点である。

以下に、児童の作品（紙芝居）を示す。図6（ワークシート作品）をもとにして図7（紙芝居作品の一部）を作成している。



図6 B児のじぶんたんけんワークシート

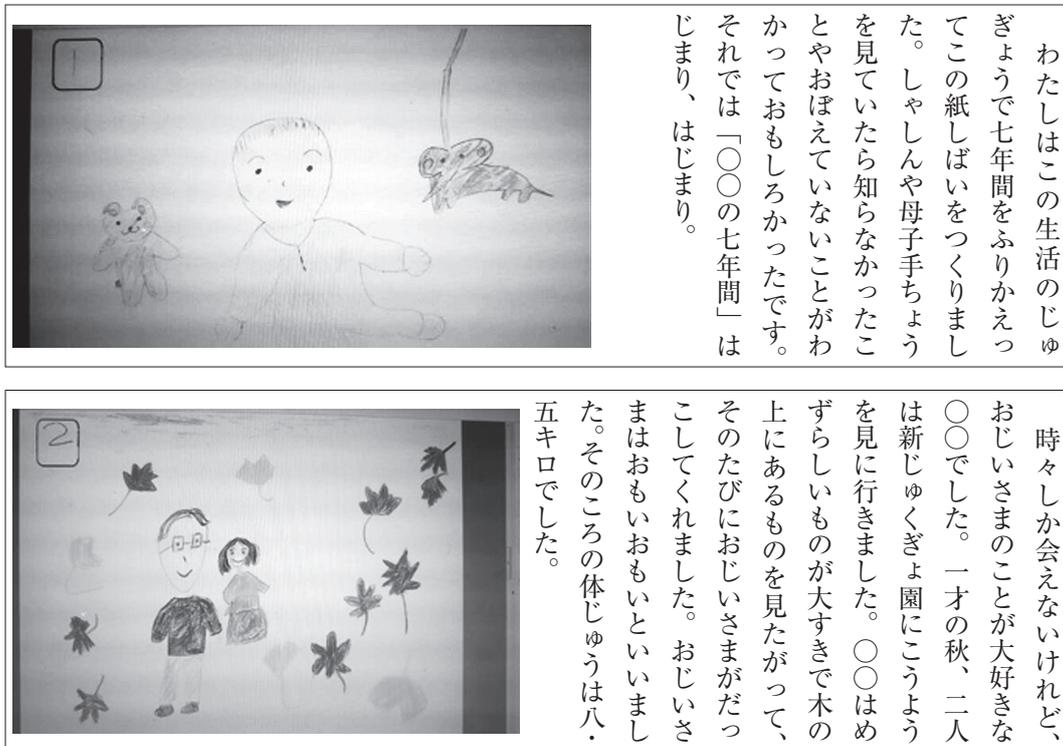


図7 B児の紙芝居作品の一部（図6の左側の2枚に対応して作成している）

（4）第6時～第8時

第6時では、図8のようにグループ内で紙芝居を見せ合う活動を行った。そして、友達
の発表を聞いて、思ったこと、感じたことを発表し合い、最後に、これまでの学習をワー
クシートで振り返った。

【A児】 ぼくが小さいころのしゃしんを見てこんなに小さかったんだと思いました。お母
さんとお父さんはここまでそだててくれたんだなと思いました。

【B児】 むかしのしゃしんや母子手ちょうを見かえて、ぜんぜん知らないことやおぼえ

ていないことを知って、みんなにかわいがられていることがわかりました。これからも、むかしのことを少しずつ知っていきたいと思います。



図8 紙芝居をグループ内で見せ合う活動

第7時では、比較的良好にかけている児童の作品を学級全員で共有するために、電子黒板を使って見せることにした。電子黒板の利点は、何と言っても大きな画面に絵を映し出せることである。胸元にマイクをつけてクリックも児童にさせた。広い部屋で行ったが、音声はよく聞こえ、画像は大きくはっきり見えるので、大いに盛り上がった活動となった。その様子は図9に示している。

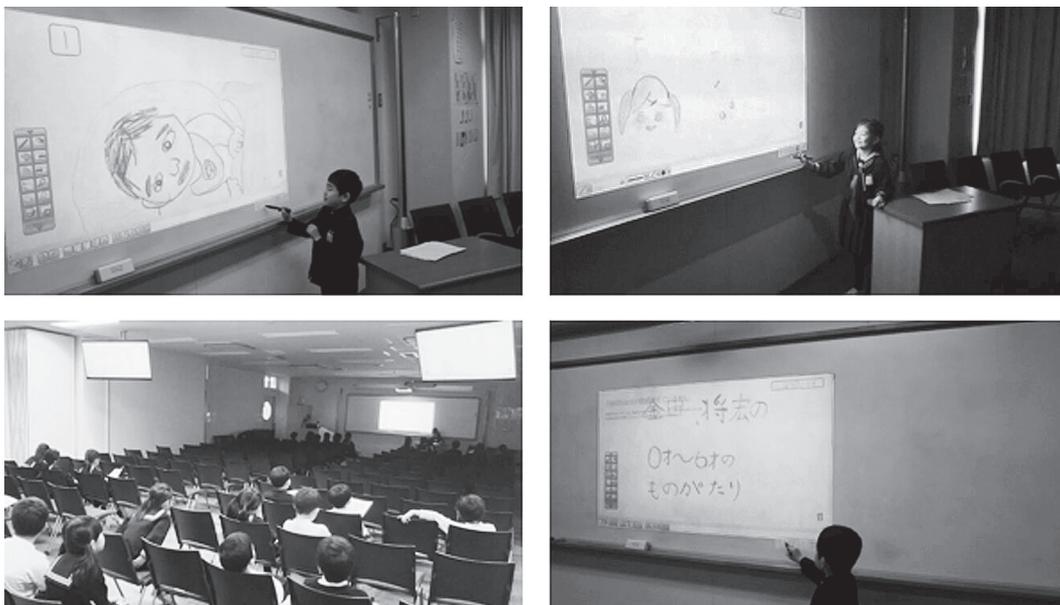


図9 紙芝居全体発表会（電子黒板を使って学級全体で共有する）

第8時では、自分のこれまでの成長についての感想と自分の成長を支えてくれた人へのメッセージを書いた。以下の文章がその一例である。

【A児】お母さまへ。お母さま、小さいころから今までありがとうございます。お母さまがうんでくれたので、今ぼくはとてうれしいです。生まれてから八年間そだててくれたので、今はとても強くがんばりにそだっています。ぼくも大人に近づきどんどん大きくなっていき、がんばっていきたいと思います。お母さまこれからもそだてください。

【B児】お母さまへ。あまりむかしのことはおぼえていないけれど、今回のべん強で、むかしのことを思い出して、紙しばいを作りました。むかしのことを知るとやっぱり楽しいし、おもしろかったので、またこういうべん強をしてもっとむかしのことを知りたいです。ありがとうございました。とてもよいしゃしんを用いしていただきました。これからもよろしくおねがいします。

(5) 第9時～第10時

これまでの学習をもとに、自分や友達によさに気づき、仲良く、安心して生活していこうとする態度を養うというねらいで行った授業である。

前時までには、自分や友達の成長の様子を見て、グループ内でお互いによさに気付いていることを付箋に書きだして共有してきた。時間の許す限り、何回かのローテーションを行い、一部のメンバーを代えて、お互いによさを付箋に書き合う活動を進めた。最後に、台紙に張られた、友達が書いた自分のよさの付箋を読んで感想を書いた。その感想例を以下に示す。

【A児の台紙に張られた付箋の内容】

・Aのいいところは正直なところ。・Aのよいところは字がきれいです。・いつも元気なところがいいです。・いつもにこにこわっているところ。・友だちとよくおしゃべりをして楽しいところ。・楽しいことをしてくれる。・野きゅうがうまい。

【A児の感想】

いろいろなよいところを書いてもらってうれしかったです。どの人もいろいろよいところがあって、おもしろいと思いました。「正直」とか「字がきれい」と書いてもらったので、これからもそうしようと思いました。みんなにいろいろなよいところを書いてもらったので、これからもみんなとなかよくしたいです。

【B児の台紙に張られた付箋の内容】

・おもしろい。・げきが上手なところ。・とてもにぎやかでわらうと元気が出ます。・まじめなところ。・いつもまじめでやさしい。・とてもびじん。・足がはやくてやさしい。

【B児の感想】

みんなにやさしいとかまじめとか書かれてうれしいです。ふせんで書かれるとよりうれしいです。これからもやさしくして行って友だちとなかよくしたいです。みんなにおもしろいことをやってみたいです。

6. まとめと今後の課題

この単元の学習を通して、A児、B児はもとより、多くの子どもたちが両親や祖父母などの家族の人にお世話になり成長してきたことに気付いた。ここで、お世話になり成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを伝えることが、これから先の生活の中でもがんばろうとする原動力となった筈である。

この単元の事前準備として、母親から成長を喜ぶ手紙をもらうようお願いしておくことは、子どもの学習意欲を高めるためには効果的であることも実証できた。

次期学習指導要領のキーワードについても、それに沿った指導ができたと考える。すなわち、自分の成長に気付けたことが「自分自身に関する個別的な気付き」であり、その成長を支える人がいることに気付けたことや友達から指摘してもらい自分のよさに気付けたことは「自分自身に関する関係的な気付き」と言える。また、振り返りのワークシートや紙芝居作品作りなど、学習のいたるところで「比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉えている」ことにより、思考力・判断力・表現力を養うことができた。そして、学習の最終場面で表現された言葉に、学びに向かう力・人間性等が表れていた。「みんなにいろいろなよいところを書いてもらったので、これからもみんなとなかよくしたい」、「これからもやさしくして行って友だちとなかよくしたい。みんなにおもしろいことをやってみたい」という言葉に代表されるように、「自分のよさや可能性を

生かして、意欲と自信を持って学んだり生活したりしようとする態度」が確実に身に付く方向で指導することができた実践だといえる。

また、本実践では持続可能な社会づくりの教育（ESD）の視点に立った学習指導も取り入れている。国立教育政策研究所が発行しているリーフレット（2012）によると、ESDで重視する能力・態度（例）が7項目挙げられている。そのうちの「コミュニケーションを行う力」、「他者と協力する態度」、「つながりを尊重する態度」は本実践でもその基礎を養うことができている。特に、つながりについては、友だちのよさを認めることで、いじめのない平和な学級づくりに寄与できると考えられる。また、お世話になった人とつながることで過去世代から将来世代へ生き方を受け継ぐことが可能である。小さな実践ではあるが、人生を構築していく上で大きな可能性のある実践だと言えよう。

今後の課題として以下のことが挙げられる。

今回の実践では、今の自分のできることや得意なことを考えさせたが、それらとともに、自分のできないことや苦手なことに目を向けさせることも肝要である。その上で、明日への希望や夢をもたせる指導へつなげていきたい。また、現行の学習指導要領（2008）の目標には、「役割が増えたこと」が明記されているが、この実践では、子どもたちの反応を見る限り、その内容にまで学習がいたらなかった点がある。

家庭環境に配慮した実践ではあるが、一般的には「父母」を学習協力者と依頼できない場合が増えている。そうしたときには、子どもを支えている「父母」以外の他者を的確に選んだ実践をしていかなければならない。むしろ、次期学習指導要領に基づく教科書では、「家族」以外の例示が多く設定されるであろう。

また、持続可能な社会づくりの教育（ESD）の視点で教育を進める上では、多面的・総合的に考える力を養えるような指導場面を取り入れることで、さらに深い学びになっていけると考える。そして、「感謝」を扱う上では、生活科だけでなく道徳や総合的学習の時間との調整（いわゆるカリキュラムマネジメント）も視野に入れて学習を展開する必要がある。

今後の指導・支援の工夫に委ねたいところである。

【謝辞】

この実践報告をする上で、学習指導案作成から教材準備にまでご協力をいただいた大矢幸久教諭に心より御礼申し上げます。

【引用・参考文献】

教育出版編集部（2015）「教師用指導書 せいかつ なかよしひろがれ 下」、pp.210-211.

文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 生活編」、pp.38-40.

国立教育政策研究所（2012）「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」、pp.7-13.

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_/icsFiles/afieldfile/2016/09/09/1377021_1_4.pdf（2017.1.6アクセス）

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_saishuu.pdf（2017.1.7アクセス）